

## 海外レポート

### アメリカ大統領選挙

# なぜトランプ氏に投票したのか

## トランプ投票者とバーニー・サンダース氏が対話

### 自動車工場が消えた ウイスコンシン州ケノーシャ郡

2016年のアメリカ大統領選挙ではドナルド・トランプ氏の勝利に終わりましたが、トランプ氏の勝利は大方の予想に反するものでした。また、民主党の予備選挙におけるバーニー・サンダース氏の健闘と合わせてアメリカ社会が大きな転換点に差し掛かっていることを強く印象付けるものでした。それにしてもなぜトランプ氏なのか疑問を抱き続けている人も多いのではないのでしょうか。

アメリカのMSNBCはウイスコンシン州ケノーシャ郡でトランプ氏に投票した人々とバーニー・サンダース氏が対話する集会を開催し12月12日に放送しました。「オール・イン・アメリカ」という番組で冒頭、司会のクリス・ヘイズ氏がバーニー・サンダース氏にインタビューし、後半ではトランプ氏に投票した人など4人の市民とサンダースを氏パネラーに、なぜトランプ氏に投票したのか議論が行われました。

ケノーシャは1902年に自動車の生産が開始され1960年代に最盛期を迎えます。自動車産業がケノーシャの雇用の43%、14000人を雇用し、労働者はミドルクラスの生活をおう歌しました。しかし、1970年代にレイオフが始まり、1988年には自動車の生産を停止します。エンジン生産は継続しますが、2010年にそれも停止し2013年には工場が閉鎖されます。映像で製造業が繁栄していた時代から、工場閉鎖後の広大な工場跡地が広がる現在まで放映されました。

集会の会場となったのはUAW（全米自動車労組）

第72支部の建物です。同支部のインターネットサイトでは2009年5月に行われた工場閉鎖に反対する集会の写真がアップされ、集会の参加者が「アメリカに投資しろ！」「ケノーシャ イエス！ メキシコ ノー！」「ケノーシャでの操業を続ける！」「アメリカの仕事を守れ！」などの素朴な手書きのプラカードを掲げ訴えています。

### 民主党予備選挙では バーニー・サンダース氏に投票

12月12日に放映された番組では、なぜケノーシャで集会を企画したか説明されます。ウイスコンシン州のケノーシャはデトロイトのあるミシガン州などと合わせてラストベルト（ラスト＝rust金属のさび）と呼ばれる斜陽化した工業地帯です。その中でケノーシャは1972年以来、44年間、大統領選挙では民主党候補に投票してきましたが、今回は272票の僅差でトランプ氏を支持しました。それに先立つ民主党の予備選挙の段階ではバーニー・サンダース氏がヒラリー・クリントン氏を破っています。以上の背景を踏まえて2016年選挙で何が起きたのかを探るためにこの地域の人々の意見を聞く集会を企画したと説明されました。

冒頭のインタビューで、バーニー・サンダース氏は過去40年間、アメリカのミドルクラスが衰退を続け非常に困難に直面していることを指摘。アメリカの人々の間に大変な経済格差が拡大しているとして聴衆に問いかけます。「1%の10分の一の人々の資産が下位90%の人々の資産と同じであることが道理のあることだと思

ますか？ トップ1%の人々の収入が下位52%の人々の収入と同じであることが道理のあることだと思いませんか？」との問いかけに対して会場にいる人々のほとんどが一斉に「ノー！」と声を上げました。

司会のヘイズ氏が変化は何年もかけて進んできた。貿易政策ではビル・クリントン大統領（民主党）も積極的に自由貿易政策を進めた。それなのになぜ今回の選挙でこの結果が出たのかを問いました。

これに対して、サンダース氏は「我々は何年も何年もの間、共和党員や多くの民主党員によって自由貿易政策は偉大なアイデアだと言われてきた。しかし人々はそれを信じることはできない。中国やメキシコとの貿易で数100万人のアメリカ人のディーセントな仕事が失われた」と述べ、同時にそうした貿易政策に対する批判が十分に行われなかったと発言。この点についてはメディアのあり方をも批判し、サンダース氏が「メディアはアメリカ社会の現実を反映していると思いませんか」と問いかけると、多くの参加者が「ノー！」と答え、司会のヘイズ氏が窮する場面もありました。

番組の中ではサンダース氏の主張に多くの参加者が一斉に同意する場面がたびたびあり、民主党予備選挙でサンダース氏がヒラリー・クリントン氏より多くの票を得ていたことがこの番組でも示されました。

### なぜトランプ氏に？

「トランプ氏はヒラリー・クリントンでなかったから」

また、トランプ氏とヒラリー・クリントン氏の間で繰り広げられた個人攻撃への嫌悪感も出されました。UAWの組合員で退職労働者のアフリカ系アメリカ人の男性はその点について「あまりにも個人攻撃に終始していた」ことに怒りをあらわにしました。「私が聞きたいのは肉とポテト（人々の現実の生活）についてなのに、彼らは自分たちのことばかり言い合っていた」と言い、この男性はヒラリー・クリントン氏に投票していますが、その個人攻撃に終始した責任はトランプ氏とヒラリー氏の両方にあると発言。ここで、司会のヘイズ氏が参加者に「みなさん

も両氏が個人攻撃に終始していたと思いませんか」と問いかけると一斉に同意の歓声と拍手が出ました。別の男性はなぜトランプ氏に投票したのかを聞かれて少し考えてから「彼はヒラリー・クリントンではないからだ」と答えています。

トランプ氏に投票したパネラーの女性が、メディケアやメディケイドなど医療保障や社会保障を「だれが負担するのか」を問い「それを負担するのは私たち自身だ」と問題を投げかけました。サンダース氏がその女性に「それではメディケアやメディケイド、社会保障を削減すべきなのか」と問いかけると女性は「削減すべきではない」と答えました。サンダース氏は「誰がそれを削減しようとしているか。共和党の議員がメディケアや社会保障を節約するという見せかけで熱心にカットしようとしているのです」と言い「それをだれが負担すべきなのか」が重要なポイントです」として次のように述べました。「私たちみんなが知るべきなのは、過去25年間に膨大な富の移転が行われてきたということです。膨大な富があなたたちミドルクラスからトップ1%の10分の一の人々のところに行ってしまったのです」。こう述べてそれをどう思うか先の女性に問いかけると「彼ら（トップ1%の10分の一の人々）が私たちに返すべきだ」と答え会場から同意の歓声が上がりました。

### バーニー・サンダース氏への 厳しい疑問も

同時にサンダース氏に対する厳しい疑問も出されています。司会のヘイズ氏がフロアの参加者にマイクを向け、サンダース氏の言う大学授業料の無料化について「あなたは賛成でないようでしたが」と発言を求めました。これに対してその年配の白人女性はサンダース氏に向かって「そのことをあなたが言うのを聞くと私はあなたの言うことを何も聞きたくなくなるのです。それはとても馬鹿げています。なぜなら誰がそれを支払うのですか。大学の授業料は80年代から急騰して6000倍にもなっています」と大学授業料高騰への怒りをぶつけます。そして「今は一定期間働いたら先任権（シニオリティールール）によって解雇されなくなる産業などないのです。どこにそんな産業がありますか。10年たっ

てもありませんよ」とサンダース氏に迫りました。

サンダース氏は大学授業料が「6000倍になっているかどうかはどうかは別として、非常に高くなっている」と授業料高騰の深刻さを認めつつ「ここに重要な問題があります。非常にシンプルな問題です。アメリカ合衆国において大学教育を受ける権利は平等な権利としてみんなに与えられるべきだと思いますか。それとも豊かな人々にだけ与えられるものだと思いますか」と問い返します。

この問いに女性は「私はアメリカでは今もみんなが大学教育を受ける機会を与えられていると信じています。それが権利なのかどうかはわかりませんが、私は私自身や私の子供たち以外の人のために支払うべきだとは思いません」と答えました。

これに対してサンダース氏が「私たちは毎年巨額のお金を失っています。多国籍大企業は巨額のお金をケイマン諸島そのほかのタックスヘイブンに隠すからです。そこから支払わせるべきなのです」と訴えると会場からは一斉に同意の歓声と拍手が沸き起こり、女性の発言が中断しました。

### オバマ大統領が GEの経営者を起用したことの批判

司会のヘイズ氏が聴衆に静粛を求めて再度女性に発言を促すと、女性はひるむことなく次のようにサンダース氏を追及しました。

「それいうならバラク・オバマ氏も多国籍巨大企業であるGE（ゼネラル・エレクトリック）のCEO（最高経営責任者）のジェフリー・イメルト氏を経済諮問機関の議長に指名しているではありませんか。イメルト氏は誇らしげにGEが税金を払っていないことを公然と言っているではありませんか。どうしてオバマ大統領はイメルト氏を指名したのですか」。

この追及にサンダース氏は「その通りです。あなたは全く正しい。それ（ジェフリー・イメルト氏の議長指名）はやってはいけない全く馬鹿げたことです」と答えGEが法人税を全く払っていないことや、イメルト氏が以前から今後の企業進出先として「中国、中国、中国」とうた

いあげていたことを確認。その上で次のように訴えました。

「私たちは歴史上最も豊かな国で暮らしています。それなのに労働者階級は大学教育を受けるお金がないのです。（大学を含めた教育の無償化は）ドイツや他の国ではやっていることなのです」。

移民やイスラム教徒についてのトランプ氏の発言も議論されました。

頭にスカーフを巻き「コミュニティの活動家」と自己紹介した若い女性は、予備選挙でサンダース氏に投票し、本選挙でヒラリー・クリントン氏に投票したと言い、トランプ氏の発言について移民やイスラム教徒の自分たちの存在が脅かされる不安をあらわしました。これに対して、パネラーの白人女性が職場に違法移民がたくさんいて自分たちの生活が脅かされると発言。

### 「憲法違反の政策をすることはしない」 とトランプ投票者

この問題について長く労働組合員で共和党員でありトランプ氏に投票した白人男性は、「トランプ氏は議論を提起しただけなのだ」とし、「憲法に違反することはできるはずがない」という趣旨の発言を行いました。

この発言にサンダース氏は「トランプ氏の発言に憲法に違反する部分があることを私も認めるが、あなたも認めますね」と確認。男性も「憲法に反する発言がある」ことを認めるとサンダース氏は大統領の候補者として憲法に違反する発言を選挙に勝つためにすること自体が問題だと指摘。会場からサンダース氏に同意の歓声が上がりました。

以上で12月12日にウイコンシン州ケノーシャで行われた集会のいくつかの論点を見てきました。この地域が長い間民主党を支持してきた地域であること、今回の大統領選挙でトランプ氏が勝利しているけれど、ごくわずかの票差であること、この集会ではサンダース氏との対話の形をとっていることなどを考慮する必要があります。それを踏まえたうえで全体を考慮しても、パネラーやフロアの参加者からトランプ氏の主張を積極的支持する声は出てきていないことは

注目すべきです。

同時にヒラリー・クリントン氏を積極的に支持する声も出てきていません。サンダース氏が繰り返したアメリカ社会の格差の拡大や自由主義政策の結果としての製造業の海外移転への怒りはトランプ氏に投票した人からもクリントン氏に投票した人からも一様に出されています。製造業の海外移転を問題にする視点ではサンダース氏とトランプ氏に共通しているように見えます。

### 全米自動車労組が「歓迎」の声明 フォード「メキシコ投資キャンセル」

新年になってフォードが16億ドルのメキシコへの新プラント投資をキャンセルしたことが報じられ、トランプ新大統領の政策への対応とされます。これについて全米自動車労働組合（UAW）は1月3日付でデニス・ウィリアムズ委員長の声明を公表。フォードのメキシコへの新投資キャンセルと国内のミシガン州のプラントへの7億ドルの新投資を歓迎するとしています。

当金融・労働研究ネットワークのホームページで12月15日にアップした「海外レポート トランプ次期米大統領後初の『ファイト・フォー・\$15』」で触れたようにトランプ氏は次期労働長官に、最低賃金引き上げに反対してきたアンディー・パズダー氏を任命するとしています。全米自動車労組は先の声明の中で「わが国で商品を販売する企業はわが国で生産するべきだ」と原則を明らかにしています。単純にそういう方向に進むとは考えにくいですが、仮にこの方向に進んだとしても、そこでの労働条件がどうなるかの保証はないこととなります。（金融・労働研究ネットワーク 田中均）